

土浦協奏曲

班長:上杉朋花 副班長:瀬戸大晴 松井陽仁 原宏樹 阿比留佑紀 小島慎太郎 TA:櫻井隆之介

1. 土浦市の現状と予測される将来

現在、土浦市は人口減少や歳入減少、中心市街地の衰退、医療介護サービスの不足など、様々な課題を抱えている。このままでは人々の交流が減少し、「顔が見える関係性」が希薄化することや、賑わい不足により都市としての活気が低下すること、行政や医療サービスの維持が困難になることが考えられる。

2. 将来都市像と目標値の設定

現状を踏まえ、私たちの掲げた将来都市像は「ひととまちで交わり、安心と賑わいを感じられる都市」である。

人々が「交わる」ことで、頼れる存在が増え、安心感が生まれることで住み続けられるまちが実現する。また、まちでの活動が増えて賑わうことで、地域全体が盛り上がると思った。

4 班では、「住み続けられる」の条件と「地域全体が盛り上がる」の条件は図 1 の通りに設定した。

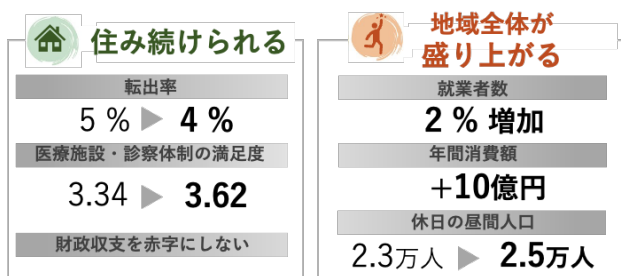


図 1 目標設定

以降では、これらの条件を達成することを目標に、「人の集積」と「地域経済の活性化」「医療の均一化」「財政の安定化」をそれぞれ掛け合わせた施策を提案する。

3. 新道の駅つちうら（中央地区）

3.1 目的

新 IC を起点に土浦に人を呼び込み、地域全体を盛り上げる。また、防災拠点として活用可能にし、より安心して暮らせるまちを実現する。

3.2 概要



図 2 道の駅建設予定地

サイクルステーションを設置し、自転車の街としての更なる地位向上を目指す他、物産館にて特産品の販売を通じ、認知度向上・ブランド力強化を図る。その他飲食店、観光案内所、休憩施設等を整備する。また、防災倉庫や通信設備を備え、洪水時に避難場所として利用可能にする。

3.3 概算事業費等

敷地面積	6250 m ²
総床面積	1590 m ²
建設費用	9.4 億円
年間利用者数	77~89 万人
年間売上高	6.62~7.61 億円
営業利益	1.25~1.43 億円

4. ミニチュア土浦公園(中央地区)

4.1 背景

ヒアリングや統計より、中心街の人口が年々減っていることが明らかとなっている。また、中心街の駐車場は点在しているだけでなく利用率が低く、一人当たりの公園面積が県平均と比べて少ないという課題も抱えている。

4.2 目的

駐車場から公園へ転用することで、中心街の賑わい創出、駐車場の集約、公園不足の解消を目指す。

4.3 概要

場所は現モール 505 駐車場で、広さは約 4330 m² である。公園が少ない中心街に設置することで住民どうしの交流を促進する。また、常磐線や土浦ニューウェイ、霞ヶ浦、れんこんをモチーフとした遊具や設備を設置することで、公園で遊びながら土浦について知る機会を生み出せる。駐車場転用による公園整備は中心街で順次行う計画である。このような施策が広がれば、駐車場の集約化や公園不足の解消、昼間人口の増加が期待できる。



図 3 公園の概要図

5. 出張診療所（新治地区）

5.1 背景

土浦市内において地区別の人口 10 万人当たりの診療所数が中央地区は全国平均を上回っている一方で、北部地域と新治地域では少ない。特に新治地域においては現在の診療所の診療科に偏りがあるため特定の医療サービスを受けるハードルが高い。

人口10万人当たりの診療所数

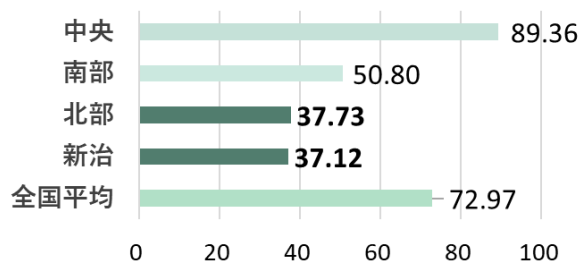


図 4 人口 10 万人当たりの診療所数

5.2 目的

新治地域内で様々な科の診察を受けることができるようにする。また、新治においてモデルケースを作り、北部地域にも波及させる。

5.3 概要

曜日ごとに異なる科の医師が診療所に招かれて診療を実施する。場所はさん・あびおの一角を借りて診療所に改装することを想定している。住民は曜日の制約こそあるが、地域内で様々な診療科に受診することができるようになる。

運営については初期整備費用の約 2000 万円は市が負担し、運営は医療法人が行う。年間の維持費は 2730 万円と推測しているが、年間の受診者数は 3000 人を見込んでおり、茨城県の平均診療点数から計算すると採算は取れると考えている。

曜日	月	火	水	木	金
診療科	整形外科	皮膚科	休診	整形外科	眼科

図 5 週間スケジュールの例

6. オープンギア

6.1 背景

土浦市南部は都心に近く、交通利便性に優れるが、図 6 の様に製造業従事者数が少なく、立地を十分に活用できていない。

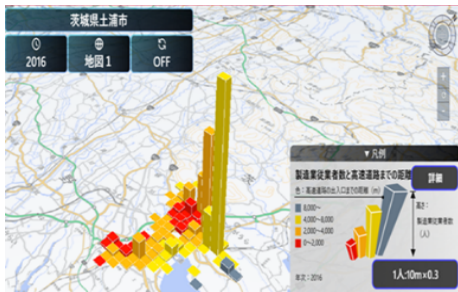


図 6 製造事業者数と高速道路までの距離

6.2 目的

工場用地不足を解消し、企業誘致を促進することで産業振興から地域経済の活性化を目指す。また、雇用創出することで製造業従事者を増やし、地域活性化を促進する。さらに、オープンファクトリーにより観光客を集め、経済波及効果を生む。

6.3 概要

見学や体験を通じて企業の魅力を発信するオープンファクトリー型の工場を誘致する。

基礎情報

オープンファクトリーとしての取り組み（例）

- ・工場見学ツアー（1日4回、各80～150名）

工場の裏側を公開し、製造プロセスや取り組みを直接見てもらうことで、楽しみながら企業への理解をしてもらう

6.4 施策の効果

この施策を行うことによって、土浦市の製造業従事者（統計つちうら参照）の約 10%にあたる **1200 人**の雇用創出や、概算ではあるがこの様な規模の工場の誘致が出来れば、**税収 12.5 億円**増加が考えられる。

7. 幼老統合施設

7.1 背景

土浦市内には老朽化の進んでいる公共施設がいくつも存在しており、これらの更新が求められる。これに際して人口減少も考慮するといくつかの施設を集約化することが求められる。

7.2 目的

主な目的は機能集約による施設の稼働率向上、運営の最適化による行政負担の軽減、多世代交流の促進の3つである。老朽化施設の利用率向上を図るとともに、統合・合理化により行政コストを削減し、財政負担を軽減する。さらに、異なる年代層が交流できる場を創出し、多世代間のコミュニケーションを活性化させることで、地域の魅力向上を目指す。

7.3 概要

現在、神立駅周辺では保育所が 10 個以上あり、かなり充実していると言える。それに対してニュータウンの形成されているおおつ野には 1 つしかないため、ここに児童福祉施設と老人福祉施設を集約した統合施設を設置する。



図 7 幼老統合施設の建設予定地

施設情報

敷地面積	3000 m ²
延床面積	1800 m ²
階層	1 階 老人福祉センター 2 階 保育所（定員:100 人）
構造	RC 造
駐車台数	40 台～50 台
費用	5 億円

- 20 年後と 60 年後に機能回復、40 年後に改築を行うことで使用年数 80 年を目指す長寿命化の推進。
- これまでの老人福祉センターとしての機能+公民館の機能の複合化

7.4 施策の効果

現在、この 2 つの施設にかかっている年間純行政コストの合計である約 3330 万円（700 万円と 2630 万円）を統合後の施設を 2 つの施設の総規模の 7 割にすることで純行政コスト自体も 900 万円削減していく予定である。

またこの他にも同様に機能集約が行えと考えられる施設は複数あるため、これらも順次集約化していく事で最終的に 3500 万円ほどの純行政コストの削減に繋げていきたい。

8. 施策による転出者数の変化予測

将来の転出者数の予測を算出するために重回帰分析を行った。転出者数を求める式は以下のようになった。

$$y=0.013x_1-45x_2+4x_3+39x_4-41x_5-71x_6-250$$

x_1 :65 歳以上の人口

x_2 :病院数

x_3 :製造業事業所数

x_4 :幼稚園数

x_5 :老人施設数

x_6 :道の駅数

提案施策の実施により、現在 5%(7013 人)である転出者率を 3%(4131 人)まで抑えることができると予測される。

9. まとめ

まちづくりは、まるで様々な要素が調和して生まれる壮大な楽曲のようだ。土浦市の抱える課題をそのままにしておくと、人々の交流が減り、都市が活気を失い、サービスの維持も困難に（演奏者が足りず演奏ができない状態に）になってしまう。

土浦市が壮大で美しい楽曲を奏で続けるために、4 班では 3 つの旋律を連ねる。1 つ目は新道の駅つちうらとミニチュア土浦公園による賑わいの創出、2 つ目は診療所数が不足している新治地区に出張診療所を設けることによる医療の均一化、3 つ目は施設最適化を行う幼老統合施設と雇用を創出する土浦オープンギアによる財政の安定化である。

これら 3 つの旋律が連なり、調和の取れた音楽を奏で続けることで、土浦市全体で安心と賑わいを感じられる都市を目指す。

10. 謝辞

本演習を進めるにあたり、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

・土浦市ふれあいセンターながみね

野村さま、スタッフの皆様

・土浦観光ボランティアガイド協会

鈴木さま

・まちかど蔵 大徳 スタッフの皆様

・エコス 新治 SC 店 スタッフの皆様

・小町の館

塚本さま、瀧澤さま、スタッフの皆様

・天ぶら八起 笹目さま

・土浦市地域包括センターうらら 中根さま

・土浦市高齢福祉課 高橋さま